

研究主題 コロナ後を見据えた、新たな特別活動の進め方

I 団体の概要及び研究テーマ

A. 団体の概要

特別活動の特質である「望ましい集団活動」の在り方を問い直し、生徒が困難や苦難を乗り越え、仲間とともに生きる目標と、生きる喜びをもつ「強い心」を育むため、特別活動の在り方を研究する。月例会や研究協議会を通して、都立高等学校教師の特別指導における指導力向上を目指し、ホームルーム経営力、生徒理解力の向上を図ることを内容とする。

B. 研究テーマ

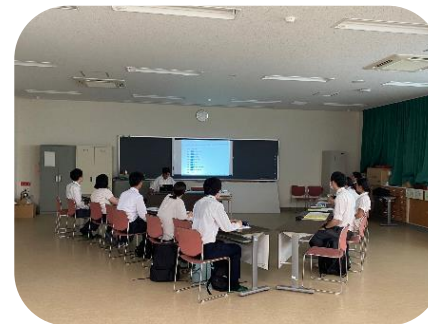
「コロナ後を見据えた、新たな特別活動の進め方」

本研究会においては、高等学校学習指導要領の特別活動について研究を重ねてきた。特別活動で育成を目指す資質・能力である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点を手掛かりとして、これらを有機的に関連付け、明確に区別することなく育成する資質・能力に関わるものとして捉えることが重要だとされている。新型コロナウイルス感染症の拡大が収まりつつあり、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等が全て再開されつつある。中学校時代をコロナ禍で過ごしてきた生徒たちが入学していることも念頭に置き、新たな特別活動の進め方を研究していくことをテーマとした。

II 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

学習指導要領に定められた特別活動のホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の3領域を中心に、都立高等学校の実践的な取組を基に、事例研究を行う。生徒との関わり方や指導方法について、基調提案・実践報告・講演等を通して、教師同士が学び合う場を設ける。

今年度は対面形式にて実施した。発表者による実践報告を基にして、参加者による情報共有や、所属校での日頃の指導に活かせる方法について研究協議を重点的に取り組んだ。特に、多くの初任者に参加いただき、「担任になったらどのように対応するか」、「行事の担当者として分掌や各ホームルームとどのように関わるか」等の意見交換を行った。



Ⅲ 研究の内容、成果、課題

A. 研究の内容

①第1回研究協議会（7月11日 東京都立石神井高等学校）

基調提案 「ホームルーム担任の仕事 1日1年」

実践報告 「生徒とともに歩んだホームルーム担任」

②第2回研究協議会（10月20日 東京都立石神井高等学校）

実践報告 「生徒とともに成長した同期との5年間 体育祭編」

実践報告 「生徒とともに成長した同期との5年間 修学旅行編」

③東京都教職員研修センターとの連携研修（10月19日）

（令和5年度専門性向上研修「5312特別活動【I】」）

テーマ 「特別活動の基礎・基本—実践発表から学ぶ、
三つの視点を踏まえた資質・能力の育み方—」

内容 「ICT機器やBYOD・BYADを利用したキャリア・パスポートの
活用を通して」

B. 成果

第1回は25名、第2回は37名の教員等の参加があり、特別活動の実践を基に、他校の事例や工夫を学ぶことができた。また発表後は、参加者同士の有意義な研究協議となった。

C. 課題

オンライン形式の開催慣れのせい、対面開催であると参加者が少ない。今後さらなる参加者の募集の工夫が必要である。また、新たな特別活動の進め方をさらに研究・協議する必要がある。

Ⅳ 今後の活動予定

○第3回研究協議会（1月12日 東京都立石神井高等学校）

第38回東京都高等学校特別活動研究協議大会

研究報告 「テーマ 未定」

○3月研究協議会（3月上旬予定、東京都立石神井高等学校）

次年度にホームルーム担任となる教員向けの研究会を開催する予定である。



<令和5年度連絡先>

団体名		東京都高等学校特別活動研究会
代表者	所属	東京都立石神井高等学校
	職氏名	校長 藤野 泰郎
	連絡先	03-3929-0831
事務局	所属	東京都立武蔵高等学校
	職氏名	主幹教諭 峯岸 久枝
	連絡先	0422-51-4554
団体ホームページ	URL	https://tokkatsu.com/
	二次元コード	